演藝畫報

芝居の研究雜誌

第十二年
第百三十二輯

昭和二年十月廿五日第三種郵便物認可
昭和十二年八月廿八日印刷
昭和十二年九月十五日發行（毎月一回）
〔臨時號〕第百卅二輯 第十二年

秋だ 踏み出せ野に山に

ハイキング割引（難波より廻遊）

九月十一日より 十一月末日迄發賣、

小島、住吉、加太	一円九五
猿坂峠	一、七〇
狭山寺池	、六五
楠公遺蹟巡り	一、〇〇
和泉、葛城縱走 A	一、五〇
和泉、葛城縱走 B	一、二〇
和泉、葛城縱走 C	二、〇〇
生石山	二、三〇
飯盛山	一、二〇
鳴瀧越	一、二〇
御陵巡り	、三〇
三石山	一、二〇
法導寺、天野山	一、〇〇

（毎土曜、日曜及祝祭日並ニ其ノ前日ニ限リ割引スルコース）

塩津、大崎、下津コース	二円〇〇
塩津、下津、箕島コース	二、一〇
海南、塩津、下津コース	一、九五

南海電車

風味必ず御氣に召す
天ぷら御料理
季節向御料理
佛蘭西御料理

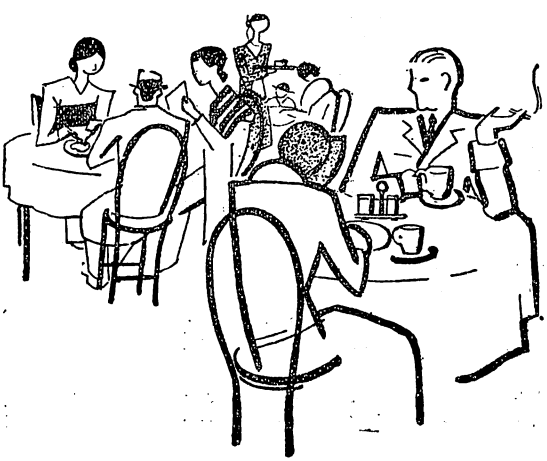
芝居情緒と食道樂

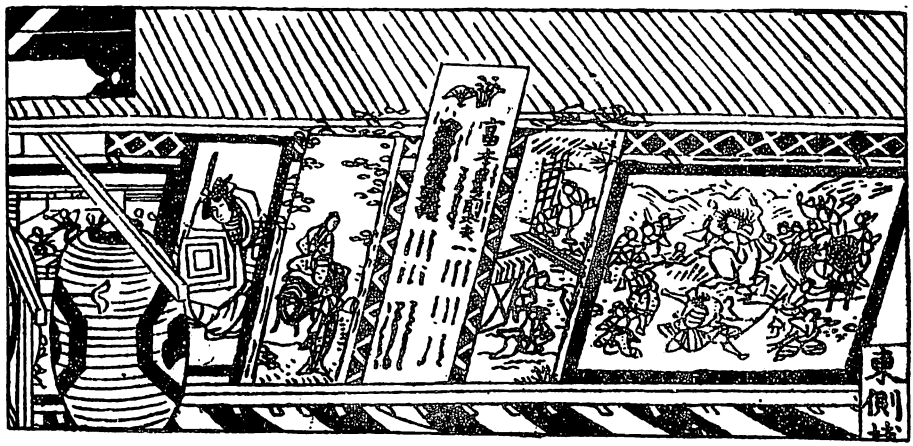
喜久屋食堂

道頓堀戎橋北詰

御芝居の歸りには打ち揃ふて
お座席で是非御會食を！

支店
大阪支店　心齋橋筋八幡筋角
北新地裏町
京都支店　木屋町ドングリ橋





★道頓堀 第十二年 第百卅二輯 目次★

卷頭言……

グラフ……九月各座特寫……

日清日露役の頃……高安吸江（二）

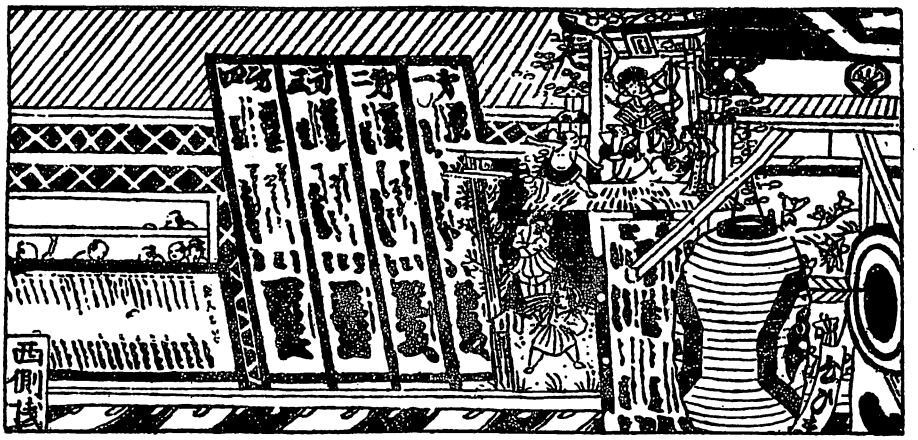
明治廿七、八年戰爭劇……中山楠雄（四）

歌舞伎戰戰爭の思ひ出……食滿南北（六）

軍事劇の種々相……高谷伸（八）

戰爭劇の研究……眞下信（一〇）

俳優と生活精神……金井修（一三）



軍事劇の印象……都築文男（二〇）
新國劇問答……新橋柳一郎（一五）
八月芝居往來記……西尾福三郎（一八）
關西新派小論……菱田正男（二三）
奮へ關西新派……川上利一郎（二四）
女優陣の横顔……阪上勝彦（二六）
道頓堀豆新聞……（二八）
映畫の頁……（三〇）
編輯後記……（三四）

天下之銘酒

白雪（シラユキ）

爽快な酔

新秋ヲ一の酒

摂津・伊丹灘

小西酒造株式會社

「愛國血染の鐵道」

王の妻小玉……十吾
王の伴豊順……天外

九月の中座
松竹家庭劇

「戀愛カメラ」舞臺面

——九月の中座——

「一樹の蔭」舞臺面

映画と歌謡曲

特別ワンコン

各社代表歌手大競演と

蘇支を探る映画の時戦編成!!

17日は26日まで◆毎日十時開演

17	18	19	20	21	22	23	24	25	26
(アビムロコ)			(ピクタ一)				(グンキミクチイテ)		
淡谷のり子	豆千代	百太郎	平井英子	市丸	三味線才香	久富吉晴	ミツキー・松山	ディック・ミネ	近衛八郎
將軍曉に死す	ソビエートの騎兵祭	ソビエート新報1・2	支那ランプの石油	蘇聯邦の軍備	支那事變特報ニュース	あかつき	蘇聯邦の軍備	支那事變特報ニュース	失はれた地平線
		支那事變特報ニュース					ソビエート新報3・4	支那事變特報ニュース	

ニュースと大戦映画は急々十六日限り

午前十時までの御入場者は

全館 三十錢 均一

全館 50セン 均一

大阪 歌舞伎座

金鶏印罐詰二大製品

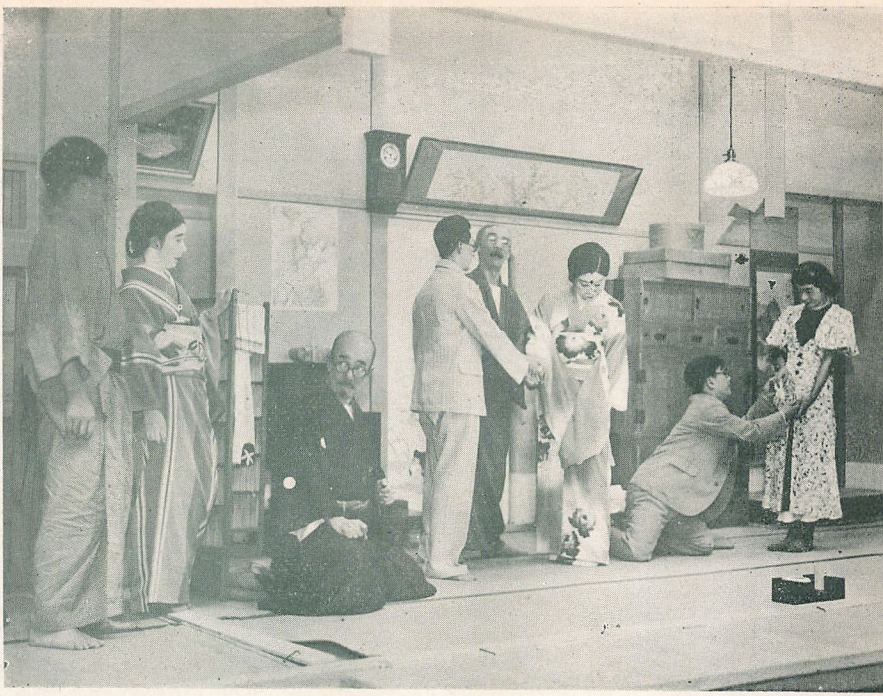
1. 純良精選の牛肉
   で御座います
1. 不意の御來客に
1. 御酒ビールの御友に
1. キャンピングに
1. ハイキングに
1. 各地百貨店
   著名食料品店
   に販賣致して居ります
1. キンケイ印を御指定下さい

洋酒・食料品・罐詰問屋

大阪市東區豊後町三番地

株式會社 横山商店

「結婚行進曲」舞臺面



——松竹家庭劇——

「少年銃後隊」舞臺面

「愛國血染の鐵道」

各場面集

ムーレクトーレ

!!肌若る香に秋

一度つけたら手離せぬ!!

レートクレームは一度つけたらその感觸、シツトリとした潤ひ、スバラしい伸び、滑澤な感觸、迅速な浸透力がハツキリと感ぜられ、キツト貴女をビツクリさせます。

一度御使ひになつたら永久に手離せません!!

くすれぬ粉白粉下にも最適です。

東京 平尾賛平商店 大阪

便所の防臭に困りの方は今直ぐ

藥學士　林彪太郎氏創製

（定價　一瓶　小金五拾錢　大金壹圓）

家庭必備品

使用簡潔
十滴奏効
無害無毒

「**アポロ**」ハ一つの便所に大抵十滴撒布すれば充分奏効します。

「**アポロ**」ハ溶かすことがいりません、このまゝ撒布すれば宜敷いから少しも面倒でありません。

「**アポロ**」ハ他の藥（カンプラ油、デシン、ナフタリン、クレゾール、樟腦など）と異ひ化學的變化により放臭物を無臭とします。

「**アポロ**」ハ毒性がなく無害で便所に**アポロ**の臭ひが殘らぬ爲め汲取人がイヤがりません。無論農作物にも無害です。

「**アポロ**」ハ使用法が輕便で奏効的確、用量が僅かですから經濟にもなります。

▼使用法　一回十滴乃至十數滴づゝ（場所により多少の加減を要す）一回多量に撒布するは却て効力を減ずる事あり使用後は栓を堅くし冷所に置かるべし。

到る處の藥店
各百貨店に販賣す

發賣元

大阪市東區伏見町三丁目　光榮商會　電話本局三三一五番　振替大阪三三一一七番

「法　傳　本　旗」

朗若波小‥‥介棟江父祖（上）

男文築都‥‥藏光の丸申庚

江松村宮‥‥以勢おの屋戸平

造正田中‥‥次意沼田（下）

男秀井野梅‥‥代津加妹

面臺舞「鹿馬の啓お」(上)

田保久小・堀・村宮・井野梅　りよ右

夫武川笈・・・・山中庚居芝紙
子蓮　瀧・・・・子　光　妻

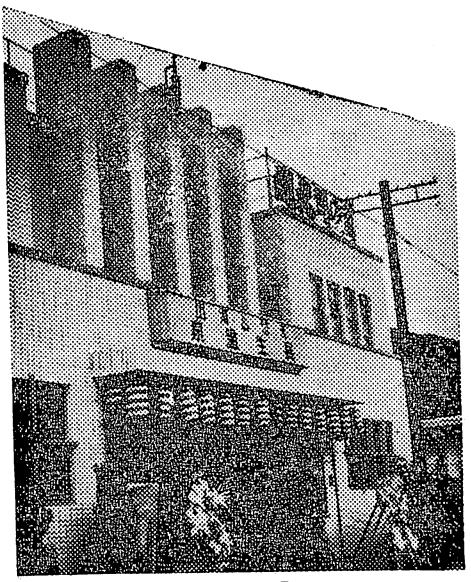
「歌　の　軍　進」(下)

團劇生長專屬

演　公回二夜晝

唯一の天然湧出 長生溫泉

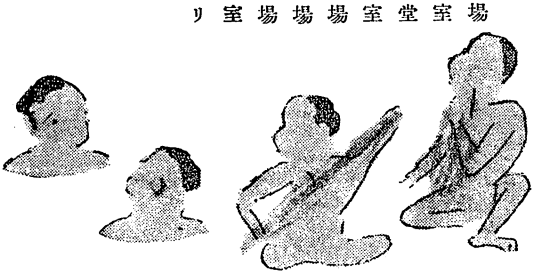
お家族連れにて一日中氣樂に遊べる



感じのよい和室洋室があります
御宴會(和食洋食一品料理)團體の御申込みは
何時にても御相談に應じます。

場内大設備

大餘興場
娯樂室
大食堂
喫茶室
宴會場
撞球場
屋上運動場
特別休憩室
賣店等アリ



此花區四貫島嘉永町七
丁半入ヘ入ル北車下目丁三通大島貫四電市
電話土佐堀㊹三一二九番

創刊廿三年

日刊工業新聞

工業界の最高指針

毎日十二頁

全工業網羅

購讀料 一ケ月 金壹圓二十錢
三ケ月 金三圓五十錢

本社經營

商設工業陳列館

大阪・中之島
上海・福州路

來館歡迎

英文工業新聞

月一回一日發行
每號十大頁
贈讀料三十錢

日刊工業新聞社

大阪—中之島・東京—銀座

支局
神戸・八幡・大阪・奉天・新京・浙江・哈爾濱・名古屋・長崎・岡山・福岡・横濱・長崎・京都・東京・小倉・大連・伯林

浪花座

金井修一黨

三役早變りの

金井　修

「地獄囃子」

あんま宗庵

櫻井源吾

閻魔の金八

浪花座・金井修一黨・九月興行

（上）「戰士の道」
日の丸サロン舞臺面

（下）「三日の婆婆」
信吉……金井修

第十二年

九月號

演劇研究・雜誌

演劇

第百三十二輯

卷頭言

現在の大衆は生活を思想を意識してゐるからこそ中間演劇―所謂智性に對する意欲を感ずる演劇を求めるのだ。

くだらない道德、生活、人情、に盛られ、そんな連鎖の所謂お芝居は、百八十度の轉廻を計るべきだ。

十歩も百歩も前進すべきだ。智性に盛られた演劇、所謂中間演劇といふものが、求められ、語られるのは、左翼演劇全盛時代に具現した、一時的な潮流、或は表面的なものではない。

現在の大衆が、切實に生活を思想を意識し求めてゐるからだ。演劇は飽迄も智性の把握に勇攻に敢然と前進、前進すべきだ。

軍事劇を語る！★★

日清日露役の頃・高安吸江

日清役といへば今から約半世紀近くも昔の事で、私はまだ中學へ通つてゐた時代ですから、そう判然した記憶も殘つてをりません。それにその頃戰爭ものを呼び物にしてゐた新派はまだ全く素人離れがしたとは云ひ兼ねる狀態であつた爲め昔から芝居好きの我家などでは强いて見物に出かけやうとはせず、私自身としてもボン〳〵いふあの鐵砲の音は大嫌であり、まだ盛んに使はれてゐた糊紅の血みどろは穢らしくもあり怖くもあり甚だ閉口であつたゝめ、我から進んで見に行かふとは思はなかつたので、自然當時の印象は極めて稀薄なものであります。

鐵砲の音といふても其時分既に軍事教育が盛でしたから、よく發火演習にも出かけまた年に一二回は天保山や練兵場で實彈射擊をやりましたから、それ等が嫌といふのではありません。狹い芝居小屋の中が臭い焰硝の煙で濛々とする處へ、時折ズドンと一發、今日からは想像出來ぬやうなドエライ音で脅かされ、到底ジツクリと見物して居られぬ、其氣持が私には堪え難いものでした。

砲聲がそれ程猛烈であつた割に戰場そのものゝ描寫は極めて拙劣で、南京花火のやうなものを舞臺の彼所此所へ投げ出すと、それシューと火を吐いてボンといふ、此方はそれ程强い音はしないが、其中を兵士等がバラ〳〵と入交つて奔廻る或は立廻らしいのもありました。そして何か是といふ窮所で

例のズドンと云ふ奴が轟くのですが、一寸火事場の喧嘩位の感はあつても仲々彈丸雨飛といふ氣分は絶對に出なかつたのです。

此れは日清、日露のではなかつたが鳥羽伏見の戰で、洋服姿の官軍が銃の先きに紐の様なものを卷付けてそれに火を點け、クス〳〵と燻つてゐるのを構へながら舞臺を往來しました。まるで火繩銃の變種みたいで頗る滑稽でしたが、しかもそれが凝性の先代仁左衛門一座でしたから一層面白く、更に奇妙であつたのは川上音次郎が同じ狂言を東京で演つた時素的に大勢のエキストラを雇つて、關門へ押寄せる足踏みだけを聞かせたなどいふスコ珍なものでした。

それで本題へ戻つて、日清役當時のことを追憶すると先づポンヤリ頭へ浮ぶのは鴈治郎の松崎大尉で、何でも帽子にシカケがあつて、銃彈に中ると顏へタラ〳〵と血が流れるのをワツト見物が喝采しました。先代梅玉が大富（鳥）公使、琥珀郎が李鴻章で日本大勝利の六幕、あとは千本櫻の鮓屋に道行、切が對面で二十七年の十月三日(?)から辨天座でやつたのです。此れが割にウケたものと見え、後に難波の五階附近で戰爭の生人形が出來た時、松崎大尉は鴈治郎の似顏だつたと覺えてゐます。

それから朝日座でしたか霞仙（先代）が斥候兵で斬り死をする場面が一轉すると美しい菊人形の所作になつた事や、此れも時日は忘れたが其頃頻々と軍用電線が盗まれたといふニュースを其まゝに卯三郎が得意の立廻で喜ばれたこともありました。

新派の方は福井、秋月、深澤、村田などがやつてゐたが、私の覺えてゐるのは南か新町の演舞場で共樂會とかいふ、今日で云へば名人會乃至は日曜會の様なもので義太夫なら伊達（今の土佐）落語は圓馬（後の圓翁）等が出演しました。此會へ川上一座が出るといふので一寸人氣でしたが、結局川上は出ず、藤澤が主役で將校斥候の苦戰の狀をやつたのです。多分臺灣征討の頃かと思ひます。

十年後の日露役には恰度私は京都大學の教室で學究生活をしてゐました。團菊の妙技を滿喫した直後ではあり、親近の友人等が或は討たれ或は傷くといふ極めて暗憺たる空氣の中にあつて仲々觀劇などいふ餘裕もなかつたが、それでも唯一度京極の明治座で靜間、深澤等の旅順勸降使の件を見ました此時はまだ旅順が陷落してゐなかつたせいか、見物は一般にあまり感慨しませんでした。

此等の兩役を通じて軍事劇としてはすべてが幼稚で、筋も

平面的な報告劇とでも云ふべきものでしたから、いつも全捷で萬歳〳〵の興奮期が過ぎるとあまり歡迎せられませんのは當然と思ひますが、面白いのは此二時代がそれ〳〵別の意義をもつてゐることです。即ちそれまで單に壯士芝居として眼中におかれなかつた川上等が戰爭劇を動機に始めて其存在を認められたのは誰しも知つてをるでしやう。

處が日露戰爭時には前に比べて軍事劇が一層盛で、新舊の別なくそれを演らぬものはなかつたが、さて其成績となると高田、小織、秋月、河合等の朝日座、福井、喜多村、深澤等の浪花座よりも鴈治郎、玉七等の中座、卯三郎、璃珏、我童等の辨天座の方が技巧的にも遙に優秀であつたと專門家の關根默庵氏が語つてをられるから大體が推察されます。即ち此時期では舊派も新劇を演じ得る手腕を確に有つ事が明になつたのです。無論機運が向いたのでしやうが既に三十七年五月に桐一葉が角座で上演され、翌年二月江戸城明渡（角）に次で乳兄弟（角）孤城落月（角）金色夜叉（角）不如歸（角）櫻時雨（南、辨）と引續きに舊派の諸優によつて演ぜられたのは實際興味の深いことでした。

明治廿七、八年の戰爭劇・中山楠雄

芝居道の人々位、その時の流れに敏感なものはない。

今日では、映畫といふ、これが最も素ばしつこく取り入れなければならない新藝術が隆盛してゐるが、なればこそまた直ぐにニユウスといふ、まことに解りよい直接な報導映畫がなにより重んぜられてゐるが、これが明治廿七、八年の日清戰爭當時となると、なんといつても、芝居が一番早く、その時流を摑んで、早速舞臺に華々しい肉彈戰を演じたのである

日清戰爭の劇を、最も早く脚色して、脚光を浴びたのは、例の川上音次郎等の新演劇、謂ふ所の書生芝居であつた即ち發生以來、東京に上つて奮鬪をしたものゝ、當時の劇通からは、

『見るに堪えず』

といはれて、輕蔑され切つてゐた書生芝居が、この機を見逃すわけがなかつた。

民衆の要求を攫むこと、最も敏感な書生芝居が、この千載一遇の際物芝居を、忽ちにして取り上げるが早いか、明治廿七年八月三十一日、淺草座に、

『壯絶快絶日清戰爭』

の看板を掲げたのである。

勿論、當時春木座に立て籠つてゐた溝口權三郎だの、後の深川座になつた當時の新聲座の中村歌女太郎などといふ連中も、直ぐに脚色して、檢閲を願つたのであつたが、これらはいくら際物といつても從來の古い型の役者が、一夜漬けでデッチ上げたものだけに、餘りに愚劣で、直ぐには許可されなかつたのが、また一方川上達には幸運であつたのである。

尤もそれらの脚本に比べて、川上の『日清戰爭』は流石に異つてゐた。

――明治廿七年八月三十一日無相違午前十一時五十分開場といふ番附で、日清戰略要圖といふ名の地圖と、北京の地圖二枚を番附の上部に印刷したとても當時としては珍らしい宣傳方法で、口上がまた實に勇壯活潑なものであつた。

『國威を輝かし、士氣を鼓舞するの目的を以て』

といふのが書き出しで、

『今回、日清戰爭を活劇に取り仕組み』

ときた。

活劇などといふ言葉の、そもそもの走りではあるまいかと思はれるが、こゝいらがまた民衆の珍らし物好きの好みに、どんとぶつかつたのである。

『觀客をして眼前戰地にあつて猛將勇士龍戰虎鬪の狀を見るの思ひあらしむ』

こゝ迄は先づ普通の宣傳口上として、次の件りに、筆者は川上の並々ならぬ宣傳上手を感じるのである。即ち、

『乞ふ天下愛國の人士、君國を思ふの赤誠を移し、來つてこの壯絶快絶なる新活劇を見よ』

といふので、君國を思ふの赤誠を移して、自分達の芝居を見に來いといふ心臟の强さは、流石に川上である。

この戰爭芝居は大當りをとつた。これは近頃歌舞伎にも全く類例のない大當りで、數十日間の大入り滿員。

それに氣をよくした川上音次郎が、演劇の材料蒐集の爲めと稱して、渡韓從軍を志願、許されて某師團に從ひ、大同江から平壤を經て、鴨綠江を渡り、淸國內地迄も踏査して、十二月三日より市村座に『戰地見聞實記』を出したのは、實に機敏で、このため流石の歌舞伎軍はいくら戰爭劇をやつても受けず、廿八年へかけて遂に書生芝居興隆の轉機を作つた。

歌舞伎戰爭劇の思出・食　滿　南　北

芝居道には『あてこみ』といふ事がある、それはひそかに時局を舞臺上でほのめかすのである、たとへば星享の事件があるとすると五代目菊五郎などは舞臺で團右衛門といふ肥つた男を椅子のやうなものによりかゝらせ、自分は短刀をもつてグツとそれを突さすと云つたやうな所謂『あてこみ』をやるのである。しかし一面時局を其儘舞臺へうつすことも仲々盛んであつた。しかし幾分はゞかつて、西郷隆盛が西條高敎になつてゐる位の事はあつた。日清戰爭當時は一方に新派の芝居があつて、戰爭ものは壯士役者に限るなど云はれたところから舊派の優人達もナニクソとサーベルを握つて可なり『戰爭劇』をやつたものだ。日清戰爭當時は、今ほどすべてが進んでゐなかつたから、芝居も甚だ幼稚なもので、喜多村と岩尾だつたと思ふがのりべにになつて花道から日本の勇士で七三にヘタ〳〵と倒れて、

『オイ何とか君』

『オヤ敵軍へ』

と云つたやうな事を云ひあつてまるで崇禪寺馬場の兄弟を思はすやうな場面などを今もアリ〳〵覺えてゐる。其中に中村鴈治郎だけがびつくりしたやうに新らしく、辨天座で、松崎大尉をやつて、

『進め』

といふ號令をかけながら花道から出る、舞臺へ來ると

『パーン』

と仕掛けで彈丸がシューツと松崎大尉の脚に中る、倒れながら、

『進め〳〵』

と軍刀をふるふのが幕といつたやうな頗る寫實な芝居をしたのでびつくりさせられたことがあつた。

何にしても

『かゝる處へ原田重吉』

と云つたやうに『チョボ』がはいるといふ時代だつた、兎に角ツラネをいふたり、合方が這入つたり、イヤハヤ大變なことであつた。それから十年もたつた日露戰爭の時代でもやはり相變らず『チョボ』『合方』『ツラネ』は盛んにつかはれてゐた

『秦の豫讓は衣をさく』

といひながら紹の羽織をもち、

『紹は即ち露西亞の露の字』

と軍刀をぬいて紹の羽織を一刀にさす、父が切腹をして

「アツパレ伜』

などいふのが嵐巖笑によつて演じられてゐたのによつても其時代の軍事劇にどんなものであつたかゞうかゞはれる。

五代目菊五郎の原田重吉の寫眞など見ても、チャンと鐵砲を負つてキツト玄武門を見あげた型が歌舞伎になつてゐるのが嬉しい、最も當時日清日露戰爭時代には錦繪なども盛んに出たのだが勢ひ芝居もそんな風でなければいけなかつたのであらう。

舊派では尾上卯三郎が大分寫實風な戰爭劇をやつた。これなどは新らしい部へ入れてもよかつたかもしれない。壯士俳優に小峰松太郎といふ男がゐていつも支那人をやつて如何にも支那人らしくつて當時評判になつたものだ、名題でも如何にも當時らしい一二をあげて見やう。

『大日本大勝利』『大日本万歳』『海陸連勝日章旗』

『戰地見聞日記』など云つた題である。何にしても爾來『三勇士』などが文樂で演じられるやうになつたので今回の事變など、いろ〳〵にあつかはれてゐるが、二十七八年、三十七八年にくらべて見ると面白いと思ふ。

夕刊四頁
（休無中年）

京都唯一の赤新聞

都日報社

軍事劇の種々相

高谷伸

軍事劇といふものが軍服を着た兵隊の芝居だとすれば西南戰爭劇から說き起さねばなるまいが、それは國內的のものだつたし明治十年の事件を翌十一年に演じてゐるのだから通信不備の時代にしてもあまりにニュースバリウが無さすぎる。

そこで軍事劇を說くにはやはり日淸戰爭から始めねばならない。明治廿七年七月廿五日東鄕艦長は豐島沖で支那海軍擊滅の火蓋をきつた。つゞいて陸軍は牙山に成歡に朝鮮から滿洲へと軍を進めて行つたのである。

民權運動と並行して進んで行つた新派の前身壯士芝居や書生芝居はちやうど第一の段階を終つた時で跳へたやうな進路を見出したのである。劇壇に於て日淸日露の兩戰役は新派の勃興にどれだけ間接の援護射擊を送つたか知れない。日淸役が既にその通りだし、日露戰役は團十郎、菊五郎の死沒の翌年に起り歌舞伎は不振の期にあたりリアリズムの多い新派が戰爭劇の巨彈を放つて猛然と歌舞伎の牙城に肉薄したものである。

歌舞伎俳優も默視してゐたのではない盛んに軍事劇を上演したが新派の方がこの種の演出や時代に適合してゐたただけ評判もよく、常に一歩づゝ先んじてゐた形はあつた。

新派が『日淸戰爭』七幕を東京淺草座で演じたのが軍事劇の濫觴である。これは廿七年八月卅一日初日の川上音二郎一座で川上は比良田鐵也といふ役で、高田實が人のいやがる支那人を引受け李鴻章で當てたものである。

歌舞伎では九月十一日初日の春木座で中車（當時八百藏）歌右衛門（當時芝翫）などが『日本大勝利』と題して演じたが、續いて十月には先代左團次等が竹柴其水作『會津產明治組重』を十一月には團十郎、菊五郎までが櫻痴居士の臺本で『海陸連勝日章旗』を出したものである。

大阪ではこれに先立つて同年十月十日初日で中座の盆替りに右團次（故齋入）が巖笑、荒五郎、吉三郎、玉七、延三郎正朝といふ一座で我帝國万々歲と角書した『凱歌日本魂』三幕を出してゐる。これは切狂言で前は『高峰櫻義經記錄』で中は巖笑の早替りで『艶容女舞衣』を出してゐた。

これに對し二日遲れて辨天座の改築落成興行には鴈治郎、

福助（故梅玉）我童、橘三郎、多見之助等が『日本大勝利』を前狂言に出してゐる。作者は勝諺藏だが春木座の日本大勝利とは同じ脚本ではなささうである。中幕には千本櫻のすし屋と道行、切が曾我の對面で鴈治郎の役は勝崎大尉といふ松崎大尉をもじつた役で千度見海軍大尉に張元洞といふ三役の外に權太に靜に十郎といふ今の扇雀のやうな役どころの時代だつた。現梅玉の政次郎、現仁左衛門の東吉、現魁車の成太郎もそれぞれこの一座に加はつてゐたものである。

京都では京極夷谷座の仲吉嶋之助、由尾若榮等の芝居まで『日清戰爭實記』を出すといふ始末で新派は言ふまでもなく大活躍、福井茂兵衛、川上薫一座は秋月桂太郎、深澤恒造、桃木吉之助、酒井政俊等が『大日本帝國大勝利』をはじめ、『日清戰爭唐撫子』『日清戰爭旭凱旋』まで次々に上演した靜間小次郎がこの一座に加はつたのが廿八年の四月からで『大日本大勝利半島譽』などもあり、日清役が終ると『臺灣征討日本錦』といふ臺灣鎭壓まで續き、これも靜間一座と川上薫一座の競爭になつた。

それらはすべて筆者の生れない以前のことだしその後の軍事劇の異色としては玄武門一番乘の勇士原田重吉自演といふ變り種もあつたし、鴈治郎が福島中佐のシベリア踏破を演じた事もある。明治三十五年山口少佐の率ゐる一部隊が青森縣八甲田山で遭難した時は先代市十郎、故璃寛（當時德三郎）等で東廼曙雪中行軍を出したこともある。

そのうちに明治三十七年の日露戰役である。筆者も小學校へ通ふやうになつてゐるから二三の芝居を親しく見たが大もの は鴈治郎、傳五郎、玉七、成太郎（現魁車）などが南座の顏見世で、前が兒雷也、中が酒井の太鼓、切が關の扉の間に次狂言として出した『召集令』である。『兄は豫備兵夫は露探』と割書した大芝居で長三郎が子役に出てゐたが、子供心にザンギリの世話場は退屈で兒雷也の草双紙趣味の方が面白かつた。それよりも戰爭劇では靜間小次郎の『梅干一ツ』の方が何となくうれしかつた。子供心を喜ばせただけでなく二日目で仕込みをすつかり上げてあとは儲けになつたといふ噂だつたからもつとお仕打はうれしかつただらうと思ふ。

乃木大將や東郷大將のは同じ軍事劇でも平時に見たので所謂軍事劇の感はなかつた。鴈治郎が爆彈三勇士の師團長を演じたのは神戸だけで大阪京都では出なかつたので見落した。今思ふと惜しい氣がする。

軍事劇の流行する戰時には氣が立つてゐるからいろいろ興味のある挿話もあるが次の機會に讓ることゝする。

戰爭劇の研究・眞下信

滿洲事變、上海事變以後暫く影をひそめてゐた戰爭劇が、今度の事變でまたまた擡頭し、戰爭が北から南へその舞臺を擴大して行くのと並行して、戰爭劇、戰爭映畫も愈々盛んになつて行く。

戰爭劇の劇化、映畫化と言つても——

直接、戰場を舞臺としたもの

關接に銃後の國民を主題としたもの

思想的に觀たもの

——と、かう三樣に分けることが出來やう。

それで、遠くは日淸、日露、近くは滿洲、上海事變、そして今度の北支事變の劇化は、大部分この一の場合を取つてゐるやうに思はれるが、一番容易く採り擧げられながら一番演出が困難なのである。

その中で纏まつてゐたと思ふのは、先づ左團次一派の演じた乃木將軍だらう。これは作も役者も演出も優れてゐた。或は題材が脚色し易かつたのかも知れない。この時のは、戰場と言つても、最前線の場面は無く、第二線の後方陣地の劇化であつた。二〇三高地總攻擊——全滅——決死隊——愛慰の死——國民非難の聲等々をバックにし、人間乃木の胸中の苦悶を描寫してあつた。かういふ劇は、主役ワキ役がシツカリしてゐて、演出がチヤンと行き屆いてゐれば、或程度まで何とか見せられる。

限りのある舞臺で、大きな場面を見せようといふのが抑々無理な話だが——それならその場面を止めたらいゝのであらうが、それがさう行かぬらしい。矢ツ張りバン〳〵やらないと戰爭氣分が出ぬらしいし、見物も納まらぬのだらう。

以前『マンハツタン夜話』といふ映畫の劇中劇に、戰場面があつたのを覺えてゐる。バックは廣い野原、舞臺の奥に塹壕があつて、それが客席から眞正面に當る。突擊になる、兵士が飛び出す、砲彈が落下する、兵士が次ぎ次ぎに斃れて行く——そこで映畫はバンしてあつたと思ふが、これは面白い構成である。尤もこんな事は映畫ならわけのない事だが、芝居でも猿之助が演つたやうに、照明を利用し、映畫の機械力を借りて、だん〳〵浸水する場面や水中を見せたりするこ

とが出來るのであるから、何とか工夫したら、前の映畫のやうな構成、演出も決して不可能とは言へまい。

次に銃後の國民を取扱つたものとなると、舞臺も普通の舞臺なり道具なりで事が濟むし、脚色も自由でやりいゝから從つて種類も多い。それで、どの劇團でもやれるわけだが、それだけに平凡に陷り易い傾きがある。その爲か映畫の方では、前述の場合と一緒にして單純さから救はうとする。劇ではそれが大げさになる爲か、さういふ行き方には出ぬやうに見受ける。

家庭劇の『千人針』は佳い物だといふことだが、未だ見てゐない。

今後キネドラマといふやうなものが、追々發達したなら、この種のものも盛んになり、佳い物も見られるやうになるであらう。

かやうに戰爭劇といつても種々であつて、創作の上に演出の上に研究の餘地は充分にある。

戰爭映畫は今後愈々發達して行かう。戰爭劇も回を重ねるにつれ、樣々研究されるであらうが、若しさうでなく、此儘で停頓するやうなことがあつてはならぬ。

殊にキネドラマの出現は當然考へねばならぬ問題であらう

新進作家、演出家の熟考を望んで、一先づ筆を擱くことにする。

繁華街に近く、交通至便
閑雅な和洋室！
◇モダン階上浴室新設◇
南地ホテル
一宿 三圓 二圓 一半
額半 愁
南地戎橋電停前
電話南四一四・四四一

本誌の年極め
御講讀を！
一ケ年三圓三十錢！
編輯部宛御申込を！

俳優と生活精神

金井　修

石の上にも三年と言ふ言葉がありますが、演劇試練の道場として、その昔から連綿とした因襲に生きた道頓堀に私はこの九月を以て第四回の進出であります。昨年の八月より、滿一ケ年の精進が、石の上にも先輩諸氏の隙間をねらひ、暫しの安定を見るに至つたと自惚れてゐる私です。これは數多くの御後援者の賜に相違ないのでありますが、その間一座の苦闘も、又よくこれに乘じて可なりと信じてゐます。

生命を賭して藝に生きよ――俳優が舞臺に立つて生きてゐる以上、舞臺の上の仕事を忘れて、浮薄にも姿面ばかりを飾りたがつたり、生活様式の形體をなすことに腐心したり、在來の俳優が職業柄、俳優的特權の故をもつてなした、自身の弱點を却つて賣物にする様な態度で、だらしのない生活に陷ることは、唾棄すべきである。

この信念は、一應の理論として、すでにしば〳〵第三者から、說き聞かされてゐることで、近代的俳優の總てもその理の當然は悟つてゐるのであります。然し、これが實行の點に於て、如何に多くの墮落者を出してゐることでせう。

私は泌々そう考へるのです。

實際に於て、俳優といふ職業は、どの方面から觀ても弱い職業である。しかしながら、この弱さに自らおぼれてはならない――むしろ、强くなること――强くといつても、その强さに於てがむしやらな一本調子でなく、現代のやうな複雜した社會情勢の元に、殊に團體生活をむすび、その中に個々の性情を以て生活する以上には、一面的には尤も弱虫で憶病であり、だがどこかに『粘り』と、ひどく眞面目な『强い精神』といふものがなくてはならないと――。

もちろん、その粘り强い精神は、他から借用して來たものでは、斷じてないことであります。

其處で、その精神こそ何でありませうか、私は地味にひた〳〵と、所謂第三階級の人々に接し、演劇報國の强い

決心をもつて、長い苦闘を續けて來ました。陸軍歩兵少尉の軍籍に身を置く私は、常に心を軍隊生活の眞髄に觸れせしめ、軍旗の元に於けるあの直立不動の姿勢、そこにこそ、日本人としての價値ある人生が、強い抱擁の腕を差しのべてゐるのではないかと思ふのであります。

『俳優の生活に軍隊生活を模範とすることはできぬ』大抵の人は恐らくさう言はれることでせう。俳優と軍人…そこに言ひ得ぬ矛盾した間隙の横はつてゐたのは、すでに過去であります

俳優に兵營生活の模倣はできないでせう、然し、軍隊生活に於ける、あの美しい規律や力強い團結力は、劇團に於ける集團生活にも取り入れ得るではないでせうか。否、絶對にそれは必要だと信じます。そして、それ以上に必要なのは、あの軍隊に於ける『粘り強い精神』なのであります。私は過去、不肖の藝道を以て、座長として一黨の面に立つて闘ひを續けました。確固たるこの精神が、私に指揮刀を振らしめ、統制の軍旗を守らしめたのです。それは軍人にかへつた私が、戰場で降り來る彈雨の中を、勇猛果敢に突撃しつゞける姿、それであると自分も感じ、又守り助けてくれる人々にも、それは語るのであります。今回の日支事變に、私の座からすでに四名の應召出征者を出しました。こう言つてゐる本人の私にも、何時召集狀が下令されるやも判らないのであります。

滿洲事變以來、戰爭が齎した日本主義の、國民思想運動の高唱が、現在の日支事變に統制ある總動員をみて、日本精神の發揚に、萬々歳を唱へたく思

ひます。然し、我が日本の國民性は、熱し易く冷め易い、非常に單純なものゝ樣に思はれます。

昂奮と感激に吾身を忘れる……だが次ざの瞬間には、もう他に刺戟を求めやうとする。思想的に一歩を誤るのもこれであると思ふのです。

大衆文學が單なる興味の面白さのみでなく、歴史の懷古に、刺戟と昂奮の誘發を以てするのも、この移り氣な國民性の陶冶に外ならないのでありますそこに文學としての使命があると同義に、吾々の振りかざし進む大衆演劇も亦、國民教化に盡すべき責があると信じて疑ひません。

そこに、私たち大衆演劇に於ける、俳優生活の根源となる、重大なる精神と意義があるのです。

彼の龍騎兵の如く！

常に果敢なる、軍旗々手でありたいと、私は念じるのであります。

スセロプ
作製板看術美

るゆらあ
廣告傳宣

廣告商事社

造勝中田

大阪千日前

電話三七九〇番
ルクナミ

新國劇問答

新橋柳一郎

A『八月の大阪歌舞伎座の新國劇を見たかね』

B『見たよ、なか〳〵面白かつたぢやないか』

A『ウン、いつ見てもわるくないね、お目見得も二の替りも見たが「人生劇場」が一番よかつたと思ふ』

B『「人生劇場」は東京でも〃吉良常篇〃が一番受けたさうだ、島田の十八番物と認めていゝと思ふ』

A『その通り、老役もいよ〳〵手に入つて來たし、こんどのなど傑出してゐたよ』

B『「總穩寺の仇擊」は堅くるしいので閉口した、芝居に女のない位無味乾燥なものはないからね』

A『助平根性出すな、だが然し、色氣抜きで緊張しつゞける芝居は一寸損だ、けれども大詰の霰の中の相擊はたまらない印象にのこつた』

B『あすこは劇場の大きいお蔭だ「人生劇場」では廣すぎて始末に困つてゐたらしいが「總穩寺の仇擊」では大きいのがモノをいつたわけだ、辰巳、島田、秋月ともみんなよく演つてゐた』

A『「荒神山」は今更云ふほどのこともない、俳優みんな手に入つてをり、殊に島田の仁吉、野村の長吉、辰巳の次郎長、長島の仁吉の女房まで相變らぬ配役だけに樂々演つてゐる』

B『序幕の長吉の宅を喰つたので久松の顏が見えないので何より淋しい、あの尼將軍が居ないといけないよ、こんどは全然來てゐない、役の都合らしいが淋しかつたね』

A『同感、長吉の母を久しぶりで見たかつたよ』

B『不撓二十年の行進歌も記念興行らしいが陸軍々歌をやつたのは時局を當込みをうまくやつたと思つた、何でもない序の合唱で

頁の評劇

も時節柄ピンと來る、然し二の替りの大毎の進軍歌は一寸宣傳が過ぎたやうに思ふ』

A『ぢや二の替りに移らう、『恐怖の家』は思つたほどの面白味がなかつた、こつちが期待しすぎたせいかしら、何だかダラ〳〵してこつちが夢遊病者にされてゐるやうで退屈せぬでもなかつた』

B『然し大詰の映畫を使つたり、犬を活躍させたり、隨分凝つてゐる面白かつたぢやないか』

A『そりやさうだが、僕はも一つだと思ふ、凝つてゐるのは「上海陸戰隊」の大詰の舞臺だよ、軍事劇でも、あんな凝つたいゝ舞臺は見たのははじめてだ、實によかつた』

B『馬鹿に賞めるね、これも大劇場のお蔭さ戰時氣分をウンと味合はせてくれた、飛行機の空爆などいゝ趣向だよ、大體この芝居は一寸ありさうな筋だし、見てゐても判り易いだけに一般向きだ、時局物としてはわるくない演しものだ』

A『高木が大いに活躍してゐる、辰巳も島田もおつき合ひだし、新國劇らしいピッタリ組んだ和やかさが出てゐて餘計に嬉しく見られた』

B『「安達元右衛門」はどう思ふ』

A『僕は全然失望した、僕はどれよりもこれを期待して來ただけに、實に面白くなかつた。もつと新解釋らしいものがあらうと思つたのにそれもなく、演出だつて歌舞伎調を出てゐない、これぢややはり歌舞伎で見た方がよかつたと思ふ』

B『同感だよ、長谷川氏の新解釋か、金子氏の新演出か、どちらかに面白味がキツト出てゐることだと內心ワク〳〵しながら見てガンと頭をどやされた形だ、たゞ元右衛門が僞盲で彌助と會ふ件が無いだけで、あとはソックリ「仇討天下茶屋聚」だ、殊に天神森の伊織殺しの元右衛門の型など歌舞伎式演出で實につまらない』

A『僕は何故新國劇が、こんなのを取りあげ

たのかと不思議な位だ、これぢやこの劇團のものぢやないよ、元右衛門の心理にしたつて大して新解釋らしいところもないし、辰巳がやることによつて反つておかしいものになつた』

B『これからもこの形のものはなるべく御免だね、九月の東京でこれをやるのを見合せたのは正に俵藤理事のいゝところだ、あれぢや東京の新國劇ファンが泣くよ、然し歌舞伎狂言はやはり歌舞伎俳優に任せておくんだね』

A『辰巳の元右衛門、島田の彌助と幸藏でもみな勝手の違ひでヘンだ、野村の東間など役ちがひだ、こんな溫順しい人がこんなものをやると元右衛門より東間の新解釋が出來さうだ』

B『ぢやこの邊で打ち切らう。失敬』

× × ×

◇迅速確實安價ヲ「モツトー」テシト◇

劇場演舞場裝飾

營業品目

店頭裝飾 徽章
室內裝飾 造花
町內飾付 久壽玉
催物裝飾 花環
花簪

TRADE MARK

各意匠、裝飾、考案調製致シマス

船場一〇七〇番ヘゼヒ御電話ヲ…

上村商店

大阪市東區南久寶寺町三丁目

電話船場(83)一〇七〇番・振替口座大阪二二〇七番

八月の芝居往來記

西尾福三郎

さなきだに夏枯れを喞つ八月劇壇の前半、折から日支事變の影響も大いにあつて、もとより大した成績を望むのは元來が無理と云ふものである。

然るに歌舞伎座の方は暫く振りの新國劇の而も二十周年記念とあるに加へて、簡易な避暑氣分の冷房裝置に惹きつけられてか、それはとにかく何れにしても今日此際の興行成績としては必ずしも惡い方ではないと睨んだ、さて、だし物の配列順が途端に變更されて第一は記念狂言の荒神山。これを先きへ持つて來ると人生劇場の吉良常の存在が一層瞭然として面白いものになつてくると云ふ譯で恐らくこの効果をねらつての變更であらうと察する。所でこの仁吉と云ふ男俠の性格は近代劇風に取扱ふと頗る興味のあるキヤラクターなのだが、瀨戸氏の本でも序幕の仁吉の家の場からみるとさうした作者の細心な用意の跡も伺はれる節があるのであるが、今度は母親役の久松の不出場の爲か肝腎の序が出場にならないので興味は半減して單なる劍戟をみせるだけの芝居になつてしまつてゐた。

人生劇場は脚色物とは云へ意外にピツタリと新國劇的にアレンヂされてゐて、久し振りで當劇團獨特の味を充分に發揮したよい出來榮えであつたと思ふ。就中島田の的確な表出に敬意を表したい。その他それ〴〵特異な性格の登場人物を面白く表現してゐた點を褒めたい。

總穩寺の仇擊は、かつて舞臺誌に發表された鶴ケ岡義士傳の事であるが、仇討であつて仇討でなく、義士傳と稱するのも一寸不當だし、この所題名の振り方に困つてゐられるらしい作者の思案顏が眼に見えるやうな氣がされる。

道理で眼狎れぬ仇擊と云ふやうな變つた文

劇評の頁

字を持出された所以か。

序幕のお寺の場の面白さ、二幕目庄吉の家への地方味の色濃さ、そして大詰總穩寺の場の立派さと、それ〴〵俳優諸君の出來の良さもさる事乍ら、一面總ての演し物を通じて歌舞伎座ならではの道具背景の良さに大いに助けられてゐる點を忘れてはならない。

從來はやゝもすれば大劇場の道具に負け氣味な芝居を見せてゐた新國劇が、最近に到つて漸やくこの種の大劇場的演技をすつかりマスターしてしまつたやうに見受けられた。

中座の方は先月一杯を同じ狂言で打ち續けた餘勢を驅つて引續く第二陣で、こゝは歌舞伎座と異なり、凉み半分のお客樣を呼べない憾みもあつて、見物はやゝ暑さに當てられ氣味である。

三つ目の鄕田氏作品が家庭劇としては初物で、敢えて怪談と業々しく名乘らぬ程度で怪談じみた演出をやつてゐた點、妥當な演出であつたと申さう。

結極、石川の女主人公が窮屈な芝居を見せてゐた事と、今迄喜劇に許り出てゐた淡海がこの芝居の番頭藤七と云ふ實直な役所で本格的(?)な腕を見せた點が印象に殘るのみである。

去月の本誌でも一寸言及したやうに、折角腕達者な役者を持ち乍ら、喜劇は喜劇悲劇は悲劇と云つたやうな役者の區別をするのはいらざる潔癖であつて、今後は狂言に應じて全俳優を都合次第に使ふと云ふやり方をもつて從來とは異つた効果を見せて貰ひたいと希望しておく。

右の外に四つ目の千人針と云ふのが時局物のトツプとして好評を拍してゐたが、さうしたセンセーションは別として、作そのものとしては從來の文福作品以上のものではない。

五つの作品の内、三つ迄おしまひが追かけの形で幕になるのは一寸鼻につく。

以上暑中囈語に代る放言無禮かくの通り。

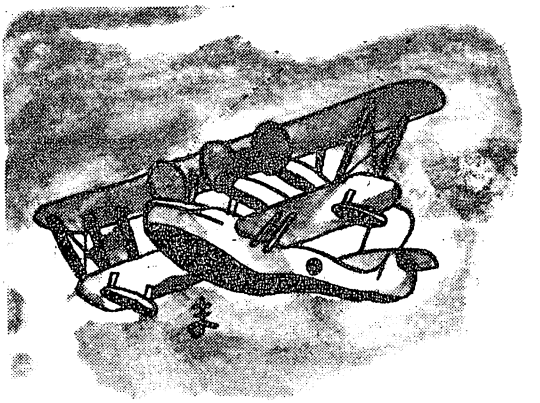
妄辭多謝。

★

軍事劇の印象

都築文男

★



『さあ料理屋の皿洗ひ、住込で月六圓だ、誰れか行かないか、料理屋の皿洗ひだ、住込の月六だ、さあ誰れかないかね、次が廣告屋の旗持、どうだね、戰爭芝居の廣告の旗持だ、露西亞兵の服を着て樂隊入りで歩るくんだ、どうだね、日給はいゝよ、一圓廿錢だ、さあどうだね誰れか行かないか』。

葭町の口入屋某の店先きで小高い臺の上から相當年輩の番頭が大きな聲で怒鳴つて居る。

可成永く續いた戰爭で勞働者は黑山に成つて押よせて居る。

日給にはふるいつきたいが、ロシヤ兵になるといふ丈で誰一人行かうといふものもなかつた。

『ヨシ俺れが行かう』

アル中から鼻の頭を少し赤くした、印伴天姿の老人が飛出して來た。

『この頃の不景氣ちや、好きな酒も呑めやしねえ、第一倅を學校へやらなきやならねえんだ、フン俺れが行くよ』とつぶやいた。

× × ×

淺草駒形國華座、日露戰爭劇、旅順口陷落、伊井一座開演、と染ぬいた赤青、黃、紫の旗を押立て、ブーカ〳〵ドン〳〵と市中を練歩行く廣告屋の一行が、丁度淺草松葉町の曲角まで來ると突然街傍から馳出して來た一人の學童が一番最後から、ヨタ〳〵と旗を持つてやつて來る、ロシヤ兵の親爺に飛ついた。

『お父ちやん、後生だから、ロシヤ兵になんかなるのはやめておくれよ、皆なが笑つて居るじやないか、おいら學校の友達に君のお父さんはロシヤ兵じやねえかと云はれたんだ、おいら口惜しくつて〳〵ネエお父さん後生だか

ら止めておくれよ、さうしてお家へ歸らふ、おツ母アも心配して居るよ、おいら食べるものがなければ、食べなくつてもいゝや、ロシヤ兵になる丈はやめておくれよ、よう〳〵』と老父にすがりついて泣いた。

物見高い群集の中には思はず貰い泣きをする人もあつた。

× × ×

之れが淺草駒形町國華座に於て開演中の伊井一派の日露戰爭劇である。

然かも此子供を見物席に忍ばせてこの一隊の通りかゝるのをキツカケに舞臺に飛上らせる手法であつた。

時代劇には、よくかうした演出はあるが、新派としては初めての試みで、其處が伊井先生の立案で大得意の味噌だつた。

或日川上音次郎が貞奴同伴でこの芝居を見に來た。すると其日に限つてどふした事か平土間から飛出す筈の子役が舞臺へ出て來ない。さあ困つたのは父の役に扮した大須賀豊であつた、眼を白黑させて、子役々々と、狂言方に合圖をするが、いつかな出そうにもない、口上言に出て居た私が、一くさりの口上もすみ、又一くさり舞臺をつないだが、だん〳〵持きれなくなる樂屋では大騒ぎ、頭取狂言方後見までがウロ〳〵して樂屋中を探がしたが、どうしても子供の姿は見へなかつた。其内に見物席は騒ぎ出す、とう〳〵一幕をメチヤ〳〵にして幕を閉めて了つた。

さあ怒つたのは伊井先生だ、例の癇癖の強い人だから仲々納まらない、殊に『川上君が見物に來て居るのに俺れに恥をかゝせるのか、子役をさがせ、一幕やり直した』と上を下への大混亂を捲き起した。すると間も無く子役が痛む腹を抱えて、WCから眞蒼な顏をして出て來た、堪え切れぬ腹痛に子供心の人にも告げる暇もなく、遂にかふした大失態を演じたのであつた。

幾分痛みの納まるのを待つて門下福島清に幕外の口上で客に謝罪をして序幕からやり直した。

恐らく一度やつた幕を又やり直すといふのは劇界始まつて先づ最初の終りといつてもよいと思ふ。

しかしそれほど伊井先生の責任感がいかに強かつたかといふ事もこれによつて想像出來ると思ふ。

客席に在つた川上先生も、

『あれが伊井君の良い處だよ』

と大變に賞めて居られました。

其時の子役は現在この世の人でありませんから、名前を出す事丈は、わざと控えておきませう。

この想出多い軍事劇を終ると直ぐに私は、野戰砲兵第十六聯隊留守大隊の第一中隊に赤紙で召集されました。（終り）

關西新派論

× × ×

關西新派小論

菱田正男

由來劇團のうまく育たない關西にあつて、組織以來今日まで、とにもかくにも芝居をやりつゞけてゐる〃關西新派〃はたしかに關西劇壇の奇蹟と謂へやう。

この奇蹟劇團も大阪、京都、神戸、名古屋等のみを轉々として、未だ東京進出のチャンスに惠まれない、だから徒らに關西――殊に大阪道頓堀の一角座にあつて齷齪してゐる現狀である、それだけに中央からは認められず、東京新派と並稱されるべき筈の立場にあり乍ら、相距ること寔に甚だしいものがある、この不振の原因はいろ〳〵ある、一々こゝへ書いてゐる遑もないから止めるが、とにかく奇蹟的な存續をつゞけてゐるだけでこの劇團は滿足してゐてはいけないことは判つてゐ乍ら今どうすることも出來ないらしい。

都築、梅野井、山口などによつてはじめて結成された當時、東京新派のそれに對して、よし貧弱な陣容であつても、敵を呑む氣慨もあり、全員ハリ切つたものがあらうとはわれ〳〵の齊しく期待してゐたものであるが、今日ではその期待は美事に裏切られて、たゞその日その日を爲すところなく風の吹き次第に任せてゐる腑甲斐なさよりわれ〳〵の眼に映らない、これでは關西新派は自滅より外はあるまい。

十月號は

愈々

十日發賣

いろんな――ポスターヴァリスさへ今日はない。――俳優たちが入座した時があつた、これらの連中は、自然に淘汰されたとはいへ、『その批難は今日では全然當てはまらぬ』と云ひ切れるかしら、もつと內部的に大斧を振り下ろす決斷が必要ではあるまいか、隱

關西新派論

× × ×

忍自重にも自から、限度がある――今からでもおそくない、新秋の飛躍に備へる必要を痛感且實行してもらひたい

時局の重大は演劇界にも相當影響を及ぼしてゐる、だからといつて、『このまゝでどうでもよろしい』と澄ましていてはいけない。

關西新派も近頃は關西劍劇團と改稱した方がよささうだ。新派で必らずしも進めとはいはぬが、當初の目的と大分進み方に於て變つて來てゐるようだ。劍劇もよし、喜劇も結構。だが、いつになつても元老がノサバリかへつては若い人々の伸びようとする機會がなくなつてしまふ。四本立なら二本位、三本なら一本位、開幕ものでも打出しでもいゝ、もつと第二線の俳優を活用させる方針が執れないものか、都築、中田、梅野井らの元老連がワキに廻り（尤も中田は大して惠まれてゐるとはいはぬが）若手をドシ〳〵活動させても元老はやはり元老扱ひにされる筈だ。

新國劇の野村、金井、久松といつた人達の地位と配役とを考へて見る時、肯づけるものがあらうと思ふ。

現在の關西新派ではさうした英斷は出來ないといふならば、もつと進歩出來る途を若い人のために拓いてやるべきだ、『第二線以下の俳優は實に拙い』といふ非難を聞くがこの點決して否定はしない、同時にその非難を賞揚させるやうなチャンスの來ることを待つてる。中堅連と元老連との提携成つて、眞に東京新派に對抗し得るまでの發展を願ふのはひとり筆者ばかりでない。

結核にはオネワクリン

淋病にはコナイン

…花柳病科…

藤原医院

戎橋筋溝ノ側西入 ★ 電話戎二六〇三六六 番★

淋病にはコナイン

結核にはオネワクリン

關西新派論

× × ×

奮へ關西新派

川上利一郎

關西新派劇團も結成以來、はや四年創立の後瞬く間に影を潜めるものゝ多い中にあつて、爾來角座を本據に無休に近い上演の記錄を持つての座員の健闘に對しては、決して讃辭を惜しむものではない。だが小成に安んずるなかれ、劇團浮沈如何の問題は寧ろ今後にあるのであつて、漸くマンネリズムに墮しつゝある昨今の足踏狀態を敢然打破し、時代の大衆の要望する處のものと合致した今日の演劇を樹立する事に依つて、初めて榮冠は、此の劇團の頭上に燦然と輝くのであつて、其の飛躍を期待するものは、啻に私一人ではあるまいと思ふ。創立當初、各方面の殘黨や新人を糾合した混成の一座であり其の後も屢々一部座員の變動こそあつたにしても、この一座で最も缺如してゐるものは團結の力である。仄聞するところに依ると、現在に於てすら、脚本の選定や配役の上に種々紛糾を釀す事が多いとか、此れは最も戒心すべき重大事であつて、團結力の無い處に潑溂たる意氣揚らず、意氣揚らざる處に絶對躍進は約束づけられないのが定則である。

この一座には、巧まずして多分の色氣を具備した、彗星的女形梅野井の艶麗あり、都築の老巧等あるにしても、新派の常道とは云へ、古い新派の型に徒らに追隨する事は、此の劇團の前進を阻むところのものでしあり得ないのである。東京新派の、喜多村、河合等の老先輩に於ては、既に洗練に洗練を重ねた完璧の至藝を持つており、彼等の舞臺に見るクラシックな新派は、其の型式が既に過去のものであつても、其の滋い味や典型的な技巧の美しさに於て、一應其の存在の意義を認め得るのであるが、關西新派の若手の人々は勿論、同一軌道の人であつてはならない。これから伸びんとする若人の劇團なのである。若人の未完成な藝は、既に完成した老優の緻密纖細或は枯淡な

關西新派論

× × ×

描寫の舞臺に、決して劣るものとは限らない。若人には張ち切れんばかりの精力があり、鬱勃たる覇氣と云ふ最大の武器があるのである。今日の大衆の氣持にピッタリと訴へる處の演劇を樹立する爲めには、よく時代の趨向を認識して、其の進路を定め、潑溂たる若人の此の武器の活用に依つて、倦かず撓まず邁進し、大衆の前に其の眞面目を發揮するところに實を結び、必ず凱歌が擧げ得られるものであると確信する。現代の世相は餘りにも慌しく、興奮又興奮の連續狀態である。而してこの現代の空氣を呼吸しつゝある人々の心に訴へる處の演劇は、强烈な刺戟か、興奮の緩和劑である笑ひの二つよりないのである。此の點に良く留意して、從來の新派の舊殼を離脱した脚本の選定が行はれ、新鮮な藝と、熱烈たる意氣を以て舞臺を壓すれば、荒削りや、藝、若さ等は問題ではないのである。

一座の中心女形梅野井の女形としての立場に就ては、女形が如何に努めても、明治大正以前の女性たり得ても、到底現代の女性たり得ない處に宿命があり、保守的な歌舞伎や古典新派の場合と異り、進取的な劇團とは調和し得ない樣に考へられるのであるが、東に花柳の例があり、梅野井も若いのであるから、今後の研究努力に依つて、美くしい女性の姿態や動作より一歩突進んだ性格表現に、又別な活路を見出すであらう事を私かに期待するものである。

尙此の他、個々の俳優に就て、腹藏する意見もないではないが、紙面の都合上又の機會に讓る事とする。

終りに劇團統率の掌に當る人に望むものは、主腦部の一二俳優の爲にのみ脚本が選定される事なしに、時代精神を把握した脚本自體が選ばれ、若手新人をドンドン適所に登用し、幹部俳優に覺醒をうながして、これに異論なき樣、統制と結束を固むべきである。斯くしてこそ今日及び明日の大衆に呼びかけるべき意義と使命を持つ新劇團として、缺く可からざる存在となる事を信じて疑はない。

とりわけ淋しい關西劇界の爲に、關西新派劇團の奮起を願つてやまない次第である。（一二、八、二九）

× × ×

關西新派論 × × ×

女優陣の横顔

阪上勝芳

しいと思つてゐる位で樂な方に廻らせてもらつてゐるとの事だつた。

秋には、健康を恢復した彼女の潑溂たる演技に接し得ることを樂しみとしよう。

瀧蓮子

『淨婚記』の比芙美、『朱と綠』の千晶、彼女はかうした難解な女性を演するに、最もふさわしい人で、彼女のもつ性格を生かせて、それに研究を加えて演出にあたるから、いつの場合にも成巧してゐる。『血染の原稿』における村尾夫人や『つなぎ舟』の藝妓などは彼女のもつ範圍ではなく、活躍を見られないのを寂しく思ふ。聞けば、身體の調子を害ねてゐて、休ませて欲らせて、天晴女俠ぶりを發揮させたいと思ふ。宮村のもつエロチシズム、その魅力が今日の動かせぬ彼女の人氣を占めてゐるのだ。彼女は、苦勞してきただけあつて藝の方は多彩で、色んな役をこなす點も感心だ。『海を見る女』の産婆や、『母なれば』の丸一の女房など印象に強く殘つてゐる。

宮村松江

肌も露はに、ピストルをかまへて、たんかをきつた上海おぎん。彼女の獨壇場はこゝにある。『書生の犯罪』に於ける毒婦ぶりも面白かつた。私は、彼女に劍をもたせて、暴れる舞臺をや

六條奈美子

教養の點からいつても、容貌の點からいつても、彼女の關西新派に於ける存在は、確固たる地盤をもつて躍進して行く人で、彼女を支持する人達で組織されてゐる後援會も堂々たるものだ松竹キネマの初期、蒲田撮影所にゐた頃の六條、『親なき娘』の可憐な演技を思ひ出す。ついで黎明期の新劇運動に參加して、苦闘修練の道を歩み、遂に今日の名を成した。彼女の演劇に對

する態度は、實に眞劍であり、眞面目である。どんな役に對しても、演りこなせる、いゝ技倆をもつてゐる。文筆に巧みで、かつては女流作家として立ちたい野望ももつたそうだ。

澤　みや子

『雁が叫ぶ時』の山猫バーのマダムや、『明治十三年』の茶店の婆さん等が、彼女の當り役で、かういう藝域は他の追隨を許さない澁味、瓢逸味、といつた獨自の線を描いて、無くてはならない人である。

若葉蘭子

優婉雅躍、その言葉はその儘彼女にあてはまるものだ。『妖刀村正』『吉田御殿』『妻戀道中』と最近は當り役續きで、益々重用されて行く。戀する乙女の純情をあらはして巧みだ。『愛怨峽』に於ける女中、『蘆溝橋事變』の娘の熱心な演出も、私の推賞したいところである。人としての若葉は溫順それが舞臺に反映して、如實に輝ける明日を約束されてゐる。

松葉笑子

映畫にゐた頃から、熱心な人で、よく研究して自己の道を開拓して行つたその頃私は、彼女の無邪氣さが好きできつといゝスターになると祈つてゐた關西新派に懷しい君を見て驚き、而も練磨された藝風を見て更に驚き、欣しく思つた。『朱と綠』の雪江『浮婚記』の眞砂の樣な役處が、彼女の持味を活かせるものである。與へられた役は、どんな場合にも忽にせず、芝居に性根をいれてゐる事が、彼女の舞臺を見てゐると、よく判る。

富士川滿惠

中堅スターとして前途を期待されてゐる人。

樋口政子

最近メキ〳〵と擡頭してきた人。その他、未來ある美くしき人も澤山あるが何れ、次回に書きたいと思ふ。

關西新派論　×　×　×

御觀劇には特に
新發賣　鶉せんべい　を
御推奬申します
瓢亭食品
優美罐入　送料共　一・二〇

支那軍閥の跳梁を旗に依つて語る十吾

中座の松竹家庭劇お名殘りのもの、不滅の日本魂を謳歌する時局篇、茂林寺文福館直志合作「愛國血染の鐵道」で、十吾の小玉が皇軍將士の前で如何に支那の國民が內亂の爲苦難を喫し來つたかを、幾度も變つた支那國旗を示して說明、最後に我が日の丸の國旗を揭げて「これなら大丈夫だ」と大見得を切る場面がある。支那の變轉極まりなき歷史を最も簡潔に識るに都合のよいこの旗に就いては、一面また支那をよく識る十吾が文獻を漁つた調査資料の發表でもあるので時節柄大いに注目されてよいものであらう、先づ孫文が第一革命を起て淸帝退位後黃龍に變つて、漢、滿、蒙回、西の五旗共和で意味する五色旗が、共和政府大統領袁世凱に依つて制定された。

道頓堀豆新聞

その以前に現在の國民政府の本體たる國民黨旗の靑天白日旗は孫文革命の軍旗でもあつた。又現在の靑天白日滿地紅は孫文が我國へ亡命中、革命會議で作つたものであつたが袁世凱の五色旗制定からその旗は暫らく海軍旗に使用されてゐた。昭和三年國民黨の北伐成功で靑天白日滿地紅が中華民國新國旗と改制されたが、その間、革命と軍閥の跳梁で內亂に次ぐ內亂、爲に戰ひの行はれた地方の民家では勝つた方の軍の旗を、即ち安直戰では黃白紅三色旗、奉直戰では紅十字旗、南北戰では靑天白日旗等々目まぐるしい變り方で無辜の支那國民は旗でもどれ程泣いて來たかわからないと云ふ結論が短時間の裡に語られるわけである。

關西新派で銃後後援會結成

戰線に活躍する皇軍の勞苦を思ひ曩に慰問金を醵出した關西新派劇では、今度は銃後後援會を結成先づ觀劇會を催して、その一部を献金する事となり、平常の連中などとは全然別に會員數三千を目指し角座の表裏を擧げて活躍を開始した。

まんざいで說く歡送常識

浪花座金井修劇は「戰士の道」「地獄囃子」「三日の娑婆」の三篇に大熱演を試み好評だが、幕間出演のまんざい連の內八千代千代八が歡送の驛頭、感激の一刻が濟むとその後には小旗が路面に散亂し中には氣付かぬ行人の土足に踏まるゝものもないとは云へない、たとへ紙製とは云へ我が國旗には變りはない、卷き納めて持歸る可きだと大眞面目で歡送常識を述べて滿場の同感を喚んでゐる。

家庭劇の本格的時局篇「血染の鐵道」は大舞臺

中座の松竹家庭劇お名殘り陣はオール新作に加ふるに時局劇の上場で歡迎されてるが、特に「愛國血染の鐵道」は、第一龍頭子の街の一角、第二王の家の內部、第三昌山附近の線路の三場に支那人を良人に身體や姿は支那化しても日本魂の權化であつた十吾の老女小玉を中心に天外の息子豊順、それに小織の武田大尉以下幹部連總出演で、便衣隊の我軍用列車の顚覆計劃を小玉が命を擲つて未然に防ぐ大詰等頗る大舞臺で堂々本格的時局劇の名に恥じぬ近來の出しものである。

飜然悔悟の極道息子中座「少年銃後隊」

中座松竹家庭劇の時局劇「少年銃後隊」の梗概は

土兼の主人惣平には兄弟の息子があつた。弟の德次は放蕩者で店の金を掴み出し始終兄と衝突してゐた、惣平の店に出入りの砂利屋では働き者が公用で出動したので後に殘つた子供が近所の子供の應援を得て威勢よく砂利の運搬に精

道頓堀豆新聞

を出す、この少年銃後隊の熱誠に惣平は一回の運搬に二回分を支拂ふと感激するし、德次も飜然悔悟して父に甦生を誓ふ。

十吾の惣平、天外の弟德次、淡海の兄熊吉、石川の妻、東の妹光子らに山口、小猿の少年軍に延丸外拾數名の子役が參加出演する。

自由勞働者の人間愛
家庭劇秋の感傷篇

中座松竹家庭劇お名殘りの第二茂林寺文福作、尾崎倉三脚色「一樹の蔭」の梗概は

良人に死別して赤兒を抱へた隆子は途方に暮れて遂に捨兒をしたそれを拾ひ上げて育てたのは自由勞働者の源吉であつた。或る日隆子は街頭で妻に死別し、乳兒を抱へて生活費を求める男を見て俄かに母性愛に眼覺めた時、偶然源吉に逢ふて我兒を取戻し二度と再び放しはせぬと誓ふ。

久し振りでしんみりと初秋の感傷を綴る全二場、十吾の源吉、石河の隆子、天外の元治のトリオの中心に一座殆んど總出演。

三役とも舞臺に
金井の超早替り

浪花座、金井修呼物の一つ「地獄囃子」では、金井が惡あんま宗庵、閻魔の金八、それに群る惡人を相手に孤軍奮闘する櫻井源吾の三役超早替りで力演してゐるが、殊にその大詰、監禁される娘雪江（河村陽子）を巡り善惡亂闘の柳島宗源寺本堂では金井が巧みな吹替へを使つて目まぐるしい程鮮やかに三役とも舞臺に出てゐる如く見える放れ業を演じ、さすが金井を見馴れた觀客を魅惑させ大喝采を博してゐる。

金井の「地獄囃子」
九月の浪花座

金井修一座は「戰士の道」を呼びものに堂々の陣、第一「地獄囃子」は、色と慾、戀の情に縺れる全四場である。

勇壯な突擊戰
エキストラ五十名

浪花座、金井修の呼物狂言、竹田敏彥作「戰士の道」六場の大詰戰線の場は豫備少尉の金井がお手のものとばかり指導に當つた完璧の舞臺であるが、特に東西兩花道を利用した〇〇隊突擊の場面などは一座百名の他にエキストラ五拾名を動員し大仕掛な舞台裝置と相俟ち凄絶勇壯、實戰さながらの場面を展開させてゐる。

紙芝居屋と少年達
假宿舍で感激の面會

角座の關西新派の第三「進軍の歌」の第二場、日頃馴染みの紙芝居屋中山が召集されてから假宿舍である某小學校へ、お小遣ひを寄せた錢別と千人力を持つて來た廣司をはじめ少年達は面會を許されぬので弱つてしまふ、事情を聞いて小使の山下老人は早速自分が元軍人であつた處から上官に具申して許可を貰つてやる。凛々しい軍服姿の中山と少年達の嬉しい對面、心盡しの品々を受取る中山の

手はふるへ、感激の眼はうるむ、最後の別れにと中山が紙芝居の説明をはじめる時、召集ラッパが鳴り響き、その勇ましさに子供達は高らかに進軍の歌を合唱する、この校門の場笈川の中山、小久保田藤山以下少年軍に中田が小使山下で附合ひ滿場の喝采を集めてゐる

道頓堀豆新聞

久々の長篇もの「旗本傳法」の場割

角座、關西新派劇三の替りの呼びもの、土師清二原作、額田六福脚色「旗本傳法」は久々の長篇もの、その場割は左の如く全十一場である。

1中洲四季庵奥座敷、2同離れ座敷、3濱町河岸、4平戸奥座敷、5濱町田沼の下屋敷の廣間6再び平戸屋おせいの居間、7千駒堂前、8妙音庵、9濱町下屋敷加津代の病室、10江戸城大廣間、11田沼邸の離れ座敷

三十二歳の女高利貸 梅野井の熱技

角座、關西新派の二番目龜屋原德作「お啓の馬鹿」の序幕、東京の或る袋小路、若の時には待合や料理屋の女中をしてゐたので、どこかに媚めかしい俤がある、安つぽいお圍ひ者と云つた感じのお啓があくせく溜め込んだ金で高利貸をしてゐる住居、穴の入口に身を潜めて金に困つた人間が迷ひ込んで來るのを待つて餌にする。一厘一錢を爭つて、只管小供の時貧乏故に虐げられた故郷の人を見返さうと云ふこの三十二歳の女高利貸に梅野井が全力的な熱演を見せ、何時もとは違つた味と色を示してゐる。

× × ×

洋酒・食料品・罐詰問屋

株式會社 横山商店

大阪市東區豐後町三番地
電話東94代表三八六五番
振替口座大阪二八四七番

創業明治五年

映畫の頁

松竹大船映畫
齋藤寅次郎作品
「母の勝利」

脚本　野田高梧
監督　齋藤寅次郎
撮影　武富善雄
音樂　早乙女光

——配役——

十郎　葉山正雄
五郎　爆彈小僧
母民子　坪内美子
祖父庄左衛門　阪本武
下男留造　木下東吉郎
隣の小母さん　粂子　岡村文子
その夫　龜吉　小倉繁
お邸の御隱居　上山草人
〃　若奥樣光子　忍節子
〃　その夫繁夫　近衛敏明
〃　その坊つちん　突貫小僧
曲馬團の女おせん　若水絹子
〃　男A　阿部正三
〃　男B　山田長正
親方　關口　武田秀郎
アンパン屋六さん　大山健二
司法主任　笠智衆
小學生　工藤　若宮金太郎
刑事　石山隆嗣

——梗概——

民子は貧しい乍ら女手一つで三年生の十郎とまだ一年生の五郎を育てゝゐた。祖父の庄左衛門は、二人の孫を酒場上りの民子にまかせておけぬと上京して、無理無態に十郎を田舍に連れ歸つた。十郎は頑固な祖父からは毎日猛烈なスパルタ教育で母戀しさに泣いた。或る時、巡回の曲馬團が來た。曲藝師おせんはふと見た十郎に失つた我が子の面影を感じた。十郎もおせんを母のやうに思つて曲馬見物の最中祖父に發見されてしまつた。

母民子は隣家のお粂の世話で五郎を連れてお邸の女中となつたところが六十の御隱居から言ひ寄られるし、五郎は女中の子として坊つちやんに虐められた。とうとう居られなくなつてお粂と一緒に鐵道工夫となつて働らいてゐる中、五郎が母の辨當を急いで届けやうと列車に觸れて負傷した。民子はその入院料の爲にアンパン屋の六さんの世話で女給となつて、前借しやうと親方に會つて見ると、快よく三百圓を出したが意外やそれは北海道行きの身代金だつた。民子は遁れやうとした。六造が短刀を拔いた。必死の民子は過つて、六造を刺してしまつた。病床には五郎が母を待つてゐるか、それとも又、祖父が引取りに來たか、二人の愛兒の爲に艱難辛苦の母民子は今や進退究まつた。

松竹大船映畫
澁谷實第二回作品
「ママの緣談」

原作・脚色　伏見晃
監督　澁谷實
撮影　杉本正二郎

——配役——

ママ　春江　三宅邦子
トンちやん一彦　爆彈小僧
祖父　森村省平　齋藤達雄
祖母　高子　岡村文子
兄　俊雄　近衛敏明
妹　敬子　槇芙佐子
パパ　門馬公作　山内光
息子　哲郎　アメリカ小僧
春江の友敦子　高峰三枝子

——梗概——

外遊中の夫に急逝され若い未亡人となつて實家森村家へ歸つた春江にはトンちやん（一彦）と愛稱さする子がある。森村家にはトンちやん祖父にあたる省平と祖母の高子、春江の兄で醫學博士になりけてゐる俊雄、姉樣氣、どりの女學生敬子といふ妹がゐる。

省平は春江を實業家

映畫の頁

映畫の頁

門馬公作に再婚させてトンちやんを自分の手許で育てやうと云ふ意見だが、早くも之をママ思ひのトンちやんが知つて小さい胸を傷めてゐるので春江も門馬と見會ひをしたものゝ、門馬にもトンちやんと同じ年の息子があつたのが判ると、緣談をことわつて、トンちやんを連れて友達の敦子の經營してゐる銀座の民藝品店で働くことにした。轉校したトンちやんが忽ち見つけた親友は偶然にも哲郎といふ門馬の息子だつた。二人はお互ひにママとパパを自慢したがお互ひに羨しかつた。トンちやんはママの愛情が變つたのではないかといふ幼な心の不安から哲郎の智慧で家へ歸ると早速假病になつた。春江は心配のあまり俊雄を呼んだ。トンちやんは假病だと言つたが本當に發熱してゐた。春江はいぢらしい我が子の氣持に泣かされたママの無い哲郎もトンちやんと一緒にメロンを喰べてから病氣で寢てゐた。パパだけが相手だつた。トンちやんも哲郎君も泌々とママとパパのよさに嬉しくなつちやたが、さてママの緣談は一體どうなる？

林長二郎主演
スペクタル映畫
蒙古襲來「敵國降伏」

史實考證　行友李風
衣裳風俗考證　食滿南北
監督　秋山耕作
脚本　柳川眞一
撮影　杉山公平

——配役——

北條時宗　林長二郎
大納言藤原師忠　坂東好太郎
兵衛次郎政國　高田浩吉
勅使　坂東橘之助
北條宗賴　中村正太郎
〃　爲時　林敏夫
〃　實政　若本一郎
菊地次郎景保　本郷秀雄
禪僧子雲　志賀靖郎
僧　日蓮　嵐德三郎
土岐上總守兼忠　坪井哲
二階堂信濃守範長　高松錦之助
宇都宮下野守貞綱　關操
秋田城之介入道淨心　鹿島英二郎
平左衛門賴時　南光明
文章傳土源兼章　風間宗六
土岐小源太兼次　天野刄一
結城左兵衛重範　結城一朗
深見三郎朝義　山路義人
三浦四郎光義　日下部龍馬
大村小圓次康弘　大川六郎
右馬之亮助國　中村政太郎
僧　日朗　津田徹也
勅使　井上晴夫
北條義政　中村吉松
時宗の奥方　北見禮子
侍女　若菜　千曲里子
土岐の娘　楓　白河富士子
侍女　萩乃　最上米子
元の大將洪茶丘　遠山滿
〃　忽敦　靜山繁男
副將　劉亭　矢吹睨兒
〃　朴世忠　葉山純之輔

——解說——

世に云ふ「元寇」の物語りは今から凡そ六百五十年程の昔、北條氏が鎌倉に幕府を設け執權職として將軍家以上の勢力をもつてゐた頃、新興國家元の國が日本に目をつけこれをその勢力下に從へやうとして使者を日本に派遣したが、時の執權北條時宗が元の態度を怒りその使者を追ひ返へしたのに端を發して怒つた元の國王忽必烈は諸國に命じて十一萬五千といふ兵を九百艘の兵船に乘せて日本に送り一擧に攻め落さんとしたが果さず、時に友永十一年十月敗走したが更に重れて弘安の年以前に倍增す兵力をもつて押し寄せたが二度目にも美事擊退の憂き目に逢ひ、日本の國威に到底抗し難いことを知つたといふもので映畫敵國降伏は文永十一年第一回の蒙古襲來後に始まつて名執權北條時宗が我國最初の國家非常時に當つて如何に果斷にこれに當つたか當時の國內狀勢を背景に描き出した一篇の歷史的事變劇の映畫である。

——概——

文永十一年十月五日元軍忽如として戰艦九百に兵四萬三千を乘せて西海の孤島對島に來冠猛威を振つて中央に押し上らんとすれども果せず潰走した。この時より元寇の脅威國內

に漲り流言飛語は四方に飛んで庶民をおびやかすことしきり當時の執權北條時宗は國難襲來に對して今その權度を示すべき時とはなつた。だが執權を圍む家臣達の間には主戦論者が多く、時宗の弟宗顯の腹はその最たるものであつたが、よく時宗の心を知り輕卒に動くべきでないことを主張する人に重臣土岐上總守兼忠があつた。土岐には二人の子があり兄を小源太、妹を楓と呼び楓と若き武士菊地次郎には父兄共に許す戀仲であつたが國狀を探をべく心を決し密使の役目を土岐の子小源太と三浦四郎の兩人に命じ秘かに元の國へ送つたがそうして時宗の心構の知る由もない若き血氣の武士達は時宗の心を疑ひ土岐を罵り果ては流言に乘せられて禪僧子雲を元の間者なりと思ひ込み、小源太の元に發つた後間もないころそ子雲を斬らんとして押し寄せたのが次郎、結城、大村、深見の四人、子雲を斬らうとして爭ふうち居合せてこれを止めんとした、土岐に誤つて致命の一刀を浴びせて終つたのは次郎だつた。

先には兄が元に去つて歸らず。今又父を人もあらうに戀仲の次郎に殺された楓の心痛は一入だつた。罪を負ふて入牢の身となつた次郎もとより誤まつてしたこと、何とぞして楓の心を解かうとしたが、それ以來楓の心は固く冷たく閉されてゐた。斯くて春去り秋來る頃、二度目の元の使者が再び鎌倉に來るといふ。明日その便者と會見するといふに夜更けても寢もやらず只一人禪を組む時宗の前に立現はれたのはその後沓として消息のなかつた小源太だつた。同行の四郎を失ひ只一人生還した小源太から元の國情を聞いた時宗は今ぞ決然蒙古來襲を待たず進んで迎へ討つの腹が決まつた。即ち翌日元の使者が非禮なる書狀を讀み上げる時一刀の許に斬り捨て部下の將士に向つて即刻出陣の令を下したのであつた

牢中に苦しむ次郎達は生きて出陣に加はらねば割腹して武士らしく死なうと悲壯な覺悟をしてゐるとき自ら入口の鍵を開け一刻も早く出陣の刻に間に合ふやうに行けと云つてすゝめのは小源太だつた。今國難を前にして私怨を捨てた小源太に感激する次郎に與へられたものは楓の切つた黑髮だつた。

軍は行く、朝曉の空にその全貌を現はした靈峰富士も亦彼等の出征を祝するが如く颯爽たる雄姿で見送つてゐた。

松竹大船映畫
東京日日新聞所載
島津保次郎監督作品
東京秘詩「淺草の灯」

原作　濱本浩
脚色　池田忠雄
撮影　生方敏夫
音樂監督　早乙女光

——配役——

小杉麗子　高峯三枝子
山上七郎　上原謙
神田長治郎（ボカ長）　夏川大二郎
佐々木紅光　西村青兒
松島靡梨枝　杉村春子
吉野紅子　松井潤子
お龍　坪内美子
半田耕作　武田秀郎
大平軍治　河村黎吉

——梗概——

まだ十二階も見えた。オペラ華やかなりし頃の深草公園。白木座に立て籠もる金星歌劇團のワンサーガールに小杉麗子といふ可憐な乙女がゐた。畫學生のボカ長が麗子に夢中なのを知つて、兄のやうな優しい忠告をしてくれるのは、一座の山上七郎だつた。酒場トスキナのマダム吳子は鐵成金の半田耕平の爲に麗子を樂屋口から連れ出し親替りたつのを恩に着せ無理强ひに、麗子を說き伏せたが、座長佐々木紅光の機智によつて、危地を脫した。或る夕暮れ、正義派のボカ長が地廻りの仙吉に言ひがかりをつけられ際どい所を山上に救はれ二人は同鄕としつて握手を交した。吳子と夫の軍治は半田の怨から、佐々木を舞臺の上で野次り倒さうと地廻りの不良を向けた。早くも之を知つた射的場娘お龍は山上に告げた。然しカルメンの舞臺はもう上つてゐた。佐々木は野次に敗けて舞臺を蹴つてしまつた。一座は危機に瀕した。樂屋は戀する山上を諦めやうとする紅子、肺を患つて飛鳥井現實派の香取達が重苦しい空氣に抑へつけられてゐた……。

映畫の頁

編輯後記

×軍國の秋――舉國一致の非常時である。その非常時を意識して本誌も軍國調の編輯をした。

×高安先生はじめ、諸先生の軍事劇の思出を收錄出來たのは、編輯者として悦ぶと共に、御執筆下さいました先生方に深く感謝致します。

×表紙も從來通り――道頓堀カラーを出して錦畵とした。これは長谷川小信氏が所藏されるもので、大阪に於て發行された、歌舞伎新報、創刊號の表紙である。

×寫眞は家庭劇の初日が四日だつたために非常におそくなつたが、來月號からは、頁數も多く元に復すつもりである。

×その他、日清、日露戰役當時の芝居物語りも多々あつたが、今月號にはどうしても間に合はなかつた。

×道頓堀各座各劇團が、引續いて、軍事劇を上演、舞臺の上から銃後の守りを、より强く固めやうと熱演してゐる。

×殊に中座家庭劇の「愛國血染の鐵道」角座の「進軍の歌」など、非常時の折、眞にピッタリとした演し物である。

×今後の本誌も非常時に際し、無駄のない編輯と、本誌ならではのカラーを出して、益々讀者諸氏の意に添ふ覺悟である。

×發行日なども斷然繰上げてどうしても十日までに、各書店を飾りたいと思ふ。

×尙、讀者諸氏にお願ひとして、日清、日露戰爭當時の軍事劇に關する番附、文獻、錦繪などございましたら、本誌に御貸し下さいますと幸甚です。

×ともかく、本誌も時局柄、緊褌一番、この重大時局に處したいと存じます。

（村上　勝）

昭和十二年九月十五日發行
月刊雜誌『道頓堀』第十二年第百卅二輯

◇誌代は前金お拂を願ひます。
◇郵券代用は一割增にて御註文を願ひます。
◇御相談の上廣告掲載の需に應じます。

廣告取扱所
大阪電報通信社
大阪市北區中之島二丁目
廣告の御用は電通または當編輯部廣告係へ御申越下さい。

一部　金三拾錢（郵稅壹錢五厘）

昭和十二年九月十五日印刷
昭和十二年九月十五日發行

大阪市南區久左衛門町八番地
松竹興業株式會社大阪支店
發行者　鳥江銕也
編輯者　松本泰三
印刷所　道頓堀社印刷部

大阪市南區久左衛門町八番地
松竹株式會社大阪支店
發行所　道頓堀編輯部
編輯京都支部
京都市姉小路東洞院西
大橋孝一郎方

あぶら取紙始祖　辻占添附

スキナあぶら取紙

姉妹品

スキナ紙白粉
スキナ石鹸

專賣特許　實用新案

スキナ御化粧紙
（あぶら取兼紙白粉）

各品共御愛用を乞ふ！

登録商標

發賣元　大阪　朝日堂株式會社

本舗　大阪　中田スキナ屋謹製

昭和二年十月廿五日第三種郵便物認可
昭和十二年九月廿八日印刷（毎月一回）
昭和十二年九月十五日發行（一日發行）
「道頓堀」第十二輯第百卅二輯第十二年

「道頓堀」 第十二年 第百三十二輯

一部 金參拾錢